

# ヌートリア

南米原産の特定外来生物。戦時中に毛皮目的で飼育されていたものが野生化しました。岡山県からの生息分布域の拡大によって、1990年頃に島根県東部地域に侵入し、約20年間で隠岐諸島を除いてほぼ全域に拡がりました。



特定外来生物のため  
**「飼育」**  
**「放獣」**  
**「生きたままでの移動」**  
 は法律で禁止されています  
 (平成17年6月1日施行)

## ◇ヌートリアの生態

生息環境	河川、池及び沼沢池で生活し、水辺から10m以上移動することはほとんどない。土手などに巣穴があって、内部は複雑。一夫多妻で夜行性。
食性	マコモ、ホテイアオイ、ヒシなどの水辺の植物をおもに食べる。
運動能力	陸上での動きは遅い。 体高の1.4倍程度(60cm)までの高さの障害物を乗り越えることができる。
その他	繁殖力が高く、年に2~3回、1回に3~8頭出産。

## ◇ヌートリアによる被害と特徴

水稻の被害が最も多く、他にもニンジンやジャガイモなどの根菜類、スイカ、キュウリ、イチジク、タケノコなどを食害します。また、ドブガイなども摂食し、被害地には特徴的な痕跡を残していきます。



水稻の食害  
(刃物で切ったような痕跡)



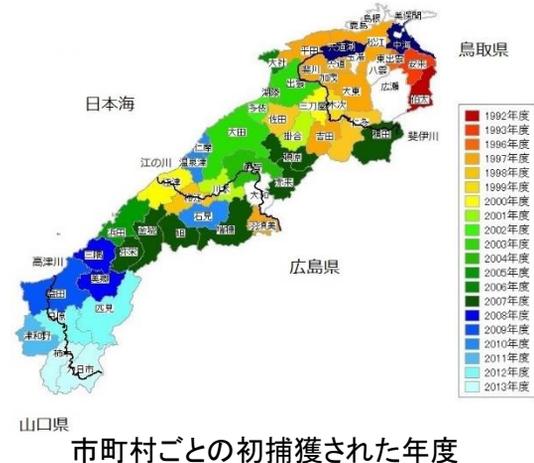
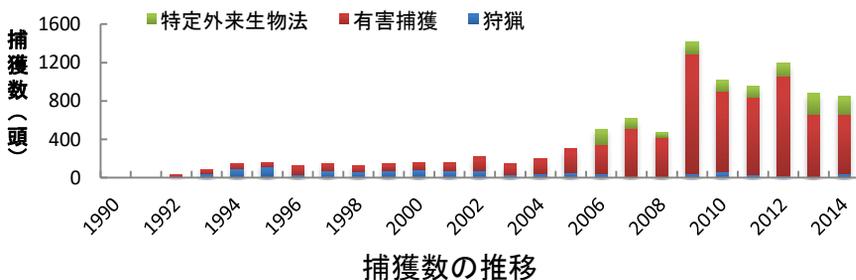
ドブガイの摂食跡



ウインナー状の糞痕

## ◇島根県のヌートリアの生息分布の拡大

島根県では東部地域から西部地域へと分布が拡大しており、現在は県下全域で生息を確認しています。



## ◇ヌートリアの被害対策

### 誘引物の除去(生ゴミ、未収穫物など)

- ・ヌートリアの餌になるものを放置しないこと。繁殖率の上昇や分布の拡大につながります。
- ・農作物は収穫時期に達したら早めに収穫します。
- ・水辺を活動範囲とするので、水辺の周辺に餌になるものを放置しないことが大切です。

### 防護柵の設置

- ・川や池などと接するラインに金網柵やトタン柵(高さ60cm)などを設置します。
- ・電気柵を設置する場合は、電線は地面から5cmの間隔で張ります。漏電しないように、定期的な草刈り管理が必要です。



ヌートリア用の防護柵

### 餌場・隠れ場所の排除

- ・水田周辺の見通しを良くして、隠れ場所を排除します。
- ・餌となるマコモ、ホテイアオイ、ヒシなどの水生・水辺植物を除去します。とくに、冬季の主要な餌となるマコモなどの根茎を水中から引き上げて、生息条件を除きます。



侵入経路の河川内や  
周辺の雑草を除去



マコモ



ホテイアオイ



ヒシ

## ◇ヌートリアの捕獲

捕獲の効率が高い場所は、水辺付近の通り道、巣穴の前や、流木の上などの休憩場です。人工的なイカダで休憩場を作り出すのも効果的です(捕獲には免許と許可が必要です)。



水辺付近の通り道に設置



ニンジン、ハクサイなどの誘引餌



イカダ上での捕獲